

令和7年度 iJAMP「市議会最前線」掲載記事一覧

掲載月	市議会	タイトル	頁
令和7年			
4月	駒ヶ根市議会（長野県）	長野県駒ヶ根市議会の議会改革	P2
5月	市川市議会（千葉県）	市議会90周年記念事業を実施～開かれた議会を目指して～	P3
6月	島田市議会（静岡県）	島田市議会版主権者教育の取組	P4
7月	丹波篠山市（兵庫県）	「変わろう！変えよう！」からはじまった議会改革の歩み	P5
8月	浜田市議会（島根県）	「主権者の声をカタチに」	P6
9月	徳島市議会（徳島県）	「傍聴者及び議員向け託児サービスを開始」	P7
10月	玉名市議会（熊本県）	「議会DXで市民の信頼UP！」	P8
11月	夕張市議会（北海道）	「ピンチをチャンスに」更に親しみやすく開かれた議会を目指して	P9
12月	奥州市議会（岩手県）	「市民に信頼され存在感のある議会を目指して」	P10
令和8年			
1月	珠洲市議会（石川県）	「災害発生時に議会は何ができるのか」	P11
2月	豊島区議会（東京都）	「議会改革のこれまでと今後のさらなる推進へ」	P12
3月	亀山市議会（三重県）	「議会報告会番組「こんにちは！市議会です」」	P13

【市議会最前線】長野県駒ヶ根市議会の議会改革＝駒ヶ根市（長野県）

25/04/01 08:00 Ln001

駒ヶ根市は長野県南部に位置し、西に中央アルプス、東に南アルプスを望む「アルプスがふたつ映えるまち」です。市の中央を天竜川が流れ、人口は約31,000人。市議会は15名（男性10名、女性5名）の議員で構成されています。

平成26年12月に議会基本条例を制定し、令和3年度に初の評価・検証を実施。令和6年度には2回目の評価・検証を行い、明確になった課題の解決に向けて「まずはやってみよう！」の精神でさまざまな取り組みに着手しています。

コロナ禍では、委員会などをオンラインでも対応できるよう整備。令和3年からは「LINE WORKS」の導入により、議員・事務局間の通知等、情報の即時共有を図るとともに、令和5年にはタブレット端末を導入し、ペーパーレス化を推進しています。

令和2年には、市民意見を議会報編集や議会活動に反映するため、議会広報モニター制度を導入。現在3期目となり、17名のモニターから貴重なご意見をいただいています。

常任委員会では市民団体との意見交換に加え、令和6年からは予算の事前検証や決算の事後検証に向けて、市が実施する施策の現在地を横断的に把握しようと「ツキニミーティング」を開始しました。議員同士の対話機会を増やすことも目的とし、市役所以外で開催する、服装自由、沈黙歓迎、結論出なくてOKなど、独自ルールのもと、月2回を目標に実践しています。

また、課題となっている議員間討議のきっかけづくりとして、予算・決算特別委員会後に「クールダウンミーティング」と称し、全議員が自由討議する中で審議を深める努力をしています。

近年では主権者教育の一環として、議員有志による「ワクワク未来部会」を中心に、市立東中学校2年生全員と協働した「こども未来会議（中学生議会）」をはじめ、市内小学生の議場見学や議場スピーチなどを企画しています。

令和6年には、県立赤穂高校3年生全員と協働し「高校生未来会議」を開催しました。ワークショップを通じ、当市の現状や課題を把握する中で、高校生が解決方法をプレゼンし、最終的にアイデア選挙により選出された代表5グループが議員に向け議場において政策提言のスピーチを行いました。

さらに令和6年に、議員発議による駒ヶ根市政治倫理条例を制定し、議員自ら襟を正すとともに公正で民主的な市政の発展に寄与することを明示しました。

これまでの取り組みにより、当市議会は市民との対話を深め、議会の機能向上に努めてきました。しかし、時代の変化とともに求められる議会の役割も進化し続けます。今後も、より開かれた議会を目指し、市民の皆さまとともに課題を共有し、解決に向けた議論を重ねながら、さらなるレベルアップを図ります。（了）



ツキニミーティング



高校生未来会議

【市議会最前線】市議会90周年記念事業を実施～開かれた議会を目指して～ = 市川市〔千葉県〕

25/05/07 08:00 Ln1

千葉県市川市では、昭和9年12月に初めて市議会が招集され、令和6年に市議会90周年を迎えました。そこで「開かれた議会」の実現に向けて、市民の皆様が議場へ気軽に足を運んでいただき、市議会をより身近に感じていただけるイベントとして、「議場コンサート」及び「作文コンクール」を実施しました。

「議場コンサート」は、議論の場である議場をコンサート会場として、小さなお子さんから大人まで、全11団体、250人を超える方にご参加いただき、合唱、器楽アンサンブル、和太鼓演奏、ダンス等、幅広いジャンルのパフォーマンスを披露していただきました。

「作文コンクール」は、市内の小中学生を対象に、市川市の未来・自分の未来を想像し、その実現に向けて「今自分にできることは何だろう」と考えてほしいとの願いから企画しました。

小学校4年生から中学校3年生まで173人の児童生徒から応募いただき、審査員となった市議会議員の選考の結果、議長賞、副議長賞など20作品が選ばれました。

議場で行った表彰式には、受賞された児童生徒のほか、保護者、関係者なども招待し、表彰状の授与、議長賞受賞者による作品朗読を行いました。

市議会としては、市川市の将来を担う子どもたちの考えに直接触れることができ、大変貴重な機会となりました。

それぞれのイベントに参加された方からは、「普段は入ることのできない議場で貴重な体験ができた」、「議員の方に親切に接していただき市議会を身近に感じることができた」などの感想が寄せられ、市議会への理解を深めるとともに、開かれた議会の実現に寄与する取り組みであったと考えています。

その他の取り組みとして、市川市の魅力をより深く知ってもらうことを目的に、市内各所の風景を収めた「日めくりカレンダー」を制作し、市川市を学ぶ機会として活用していただけるよう、市内の小学校、中学校、保育園、幼稚園等に配布しました。

市川市議会では、これからも未来を担う子どもたちが夢と希望を持てるよう、市民の皆様と手を携え、次の100周年、またその先へと歩みを進めてまいります。（了）



議場コンサート



作文コンクール

【市議会最前線】島田市議会版主権者教育の取り組み＝島田市（静岡県）

25/06/06 08:00 NG94

令和5年12月、全国市議会議長会等から国に対し、主権者教育の強化を求めることについて要望が出され、全国的に主権者教育に対する機運が高まっています。この流れを受け、当市議会では、令和6年8月に、次世代を担う子どもたち（小学生）とその保護者を対象とした「夏休み親子議場探検ツアー」を初めて開催しました。

ツアー当日は、議員との交流を通じて市議会の役割や仕組みを学び、市政及び市議会に興味を持ってもらうことを目的としたいくつかの企画を用意しました。はじめに、参加者は市及び市議会についての簡単な講義を受け、その後、令和5年10月に運用開始したばかりの真新しい議会エリアの探検に出発しました。探検中、議長応接室や委員会室などの各スポットでは、議員から議会に関するなぞなぞが出され、子どもたちは議員との会話の中で、ヒントをもらいながら真剣に考えましたが、このなぞなぞには保護者たちも四苦八苦。議員や参加者同士の交流も深まり、普段は閑静な議会エリアに、子どもたちの元気な声が響き渡りました。

探検終了後は、議場で子どもたちから議員に対し自由質問を行う時間を設けました。「島田市の市章にはどういう意味があるの?」「島田市にはいくつ企業があるの?」「島田市のお茶畑の面積は?」など、事前通告なしの直球質問の数々が議員に投げかけられ、普段は市政をただす立場の議員が子どもたちの質問にたじろぐ場面も。議場は終始笑い声であふれていました。

イベントの事前周知や参加者募集の方法などに課題も見つかりましたが、参加者からの感想はおおむね好評であり、運営に携わった広報広聴特別委員も、既に次の開催に向けた検討をはじめています。

その他、当市議会では、18歳への選挙年齢の引き下げを踏まえ、次世代を担う高校生が市や市議会の現状をどのように捉え、今後どうなっていてほしいかなどの意見を市政に反映できる場を設けていくべきだとの観点から、市内の各高等学校の協力の元、定期的に高校生との意見交換会を実施しています。昨年度の意見交換会では、議会だよりの紙面の改善点について高校生へ意見聴取を行い、その意見を参考に議会だよりのフルカラー化を実現するなど、具体的な成果も上がっています。

若年層が市議会に対して、興味・関心を抱く特効薬となる取り組みはないと思われるため、今後も若年層との交流を行う中で、試行錯誤を重ねながら、島田市版の主権者教育を進めていきます。（了）



議場探検ツアー

【市議会最前線】「変わろう！変えよう！」からはじまった議会改革の歩み＝丹波篠山市（兵庫県）

25/07/02 08:00 Ln1

丹波篠山市は兵庫県の南東部に位置し人口は約39,000人。市の基幹産業は農業で、主な特産物には丹波篠山黒豆（黒枝豆）、丹波篠山山の芋、丹波栗、丹波茶や丹波焼などがあります。全国的に知られる「デカンショ節」のふるさとでもあり、8月には「デカンショ祭」が盛大に行われます。

丹波篠山市議会では、平成20年から「変わろう！変えよう！」をスローガンに、平成24年には議会基本条例を施行し、市民に開かれた身近で信頼される議会、市民の負託に応えられる議会の実現を目指して議会改革に取り組んでいます。

議会基本条例の施行後も検証を行い、政務活動費の活動報告書や領収書のホームページ上での公開や活動報告会を行い透明性を確保する取り組みを行うなどの改善を図ってきました。

令和5年度に行った検証の中では、市民に分かりやすい議論を行うため、本会議の資料を会議前にホームページで公開を始めました。また、市民に開かれた議会を目指す観点から、ライブ配信のみ行っていた委員会審査について録画配信も開始しました。平均して約100回超の再生数となっており、これまで委員会審査を見ていただくことができなかった市民の方にも見ていただけるようになりました。

また、議会報告会では、参加者の固定化や特定の方の発言が多いことが課題であったため、議会報告とテーマを設定したワークショップ形式の意見交換会の2部制に変更することで、これまで参加されなかった市民の参加や参加者全員からの意見を聴くことができるようにし、参加者からは「日頃感じていることを自由に発言できた」、「自分の考えを発表できてよかった」などの感想をいただきました。

そのほかにも、議会だよりにクイズを掲載し、市民からの感想や意見を募る仕組みを導入することで広聴機能の強化を行ったとともに、今夏には主権者教育に取り組むため、小学生を対象にした「ふれあい子ども議会教室」を開催予定です。

今年度も議会改革調査特別委員会を立ち上げ議会基本条例の検証や議場モニターの導入についての調査研究を行っています。今後も時代に即した議会運営となるよう改革を重ね、市民に開かれた議会、市民の負託に応える議会を目指して取り組みを続けていきます。（了）



議会報告会：ワークショップの様子

【市議会最前線】「主権者の声をカタチに」＝浜田市（島根県）

25/08/04 08:00 Nf001

島根県浜田市議会では、議会と市民が双方向に学び合う主権者意識醸成の取組に重きを置いています。その中心にあるのが「はまだ市民一日議会」です。市民が議場に登壇し、自らの意見を議員に直接届けることができるこの取組は、第16回マニフェスト大賞で優秀躍進賞を受賞しました。

令和3年の初開催以降、学生や子育て世代、社会人など老若男女問わず多様な層にご参加いただき、空き家対策や子ども支援、起業促進など市を良くしたいという声を伺ってきました。特徴として、形式的な意見の発表で終わるのではなく、議会や委員会での協議等を通じて政策に反映されている点があります。実際に、登壇者の声をもとに、執行側の行政も同様に必要性を感じ、ボール遊びができる公園の整備や駅付近に学習スペースが設けられるなど、市の政策に反映されています。また、参加者からの提案に議員自らも学びを深め、子ども条例の制定に向けた議員連盟の発足や若者参画の促進の取組など政策へ波及させるための動きもあります。

このように、議会に届けられた市民の声が政策に反映されるというプロセスが評価され、早稲田大学デモクラシー創造研究所が実施する「地域経営のための議会改革度調査2024」において、浜田市議会は全国2位となりました。

主権者参画の取組は「はまだ市民一日議会」だけではありません。教育機関との連携も特徴的で、市内高校生との意見交換会や浜田市にキャンパスを持つ島根県立大学との共同研究なども行い、学生のうちからまちづくりや政治に関わる機会を創出しています。それらの取組が功を奏したのか、小学校側から政治に関する調べ学習でまとめた内容を議員に対し発表したいという依頼もあり、小学6年生2クラス13グループの生徒から、現状の調査や分析に基づいた様々な提案を受けました。

議会基本条例に規定する「議会報告会」は、地域井戸端会と称して議会から報告する場から地域の声を聴く場へと転換しています。市域の広い浜田市であるため、市内28会場に議員がグループごとに分かれて出向き、地域住民と意見交換を行いながら政策形成に生かしています。

こうした一連の取組によって、議会が一方向的に「説明する場」から、市民とともに未来を考える「協働する場」へと進化していると言えます。市民一人一人の声を未来につなぎ、住民の福祉の増進へと結び付けていくために、浜田市議会ではこれからも一歩ずつ着実に歩みを進めていきます。
(了)



7月に開催した
第5回はまだ市
民一日議会の様
子

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JIJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.

【市議会最前線】傍聴者及び議員向け託児サービスを開始＝徳島市（徳島県）

25/09/05 08:00 Nf003

徳島市議会は、女性の社会進出や共働き世帯の増加といった現代社会の変化に対応し、子育て世代の議会活動への参加を促進するため、独自の取り組みを令和7年9月定例会より開始します。

近年、子育て世代が社会活動に参加する機会が制約されるケースが少なくありません。特に、議会活動への参加は、会議時間の長さや子連れでの参加の難しさから、心理的なハードルが高いのが現状です。議会活動の透明性を高め、市民の声をより幅広く議会に反映させるためには、こうした課題を解決し、誰もが安心して議会に参加できる環境を整備することが不可欠です。

そこで、徳島市議会では、お子様連れの皆様が本会議や委員会を傍聴する間や子育て中の議員が本会議や委員会出席中に安心して利用できる託児サービスを開始します。このサービスは、議会が開かれている期間中、専門の保育スタッフが安全かつ快適な環境でお子様をお預かりするものです。これにより、お子様の預け先を心配することなく、議会の傍聴や議員としての職務に集中できるようになります。

また、小さなお子様連れの皆様が安心して議会活動に参加できるよう、授乳スペースも新たに設置します。プライバシーに配慮した個室空間で、授乳やおむつ替えをすることができます。このスペースは、本会議場や委員会室の近くに設置され、必要なときにいつでも利用可能です。

これらの取り組みは、子育て中の市民の皆様が議会活動に積極的に関わることを可能にするとともに、多様なライフスタイルを持つ市民の皆様の意見を議会に反映させるための重要な一歩になります。

議会が市民にとってより身近な存在となり、誰もが参加できる開かれた場になることを目指し、徳島市議会では、今後も市民の皆様の声に耳を傾けながら、誰もが暮らしやすい社会の実現に向けた取り組みを進めてまいります。（了）



本会議や委員会を傍聴する皆様と、本会議や委員会に出席中の議員が利用できる託児室の室内

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JIJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.

【市議会最前線】 議会DXで市民の信頼UP！ = 玉名市議会（熊本県）

25/10/06 08:00 Nf1

熊本県北部の玉名市は、有明海や菊池川、小岱山に囲まれた豊かな自然と歴史的資源、温泉にも恵まれた都市です。人口は約6万2000人、市議会は現員20名（男性18名、女性2名、定数22名）で構成されています。

玉名市議会は、昨今の議員活動の透明化という社会的要請に応えるための一環として、2024年10月から、株式会社エイブルコンピュータが開発したシステム「セムカン」を実証実験として導入し、政務活動費の報告から公開までのプロセスのDXに挑戦しました。

従来は、年度末に議員が紙ベースで政務活動費の報告を行い、議会事務局が領収書の確認、集計、PDF化、ホームページへの公開といった作業を行っていました。多忙な年度末に集中するこの作業は、膨大な時間と労力を要し、ミスやチェック漏れのリスク、市民に分かりづらいPDF形式での公開といった課題がありました。

「セムカン」導入により、これらの課題の多くが解決。オンライン提出により議員はいつでもどこでも報告が可能になり、事務局職員の負担も大幅に軽減されました。年度末に集中していた業務が通常時に分散化されることで、職員一人当たり年間約40時間の業務時間が削減され、チェックの強化やミス防止対策により多くの時間を割くことができました。



少人数でのセムカン寺子屋の様子

また、「セムカン」の機能を活用することで、データの視覚化による透明性向上も実現。市民はより立体的に政務活動費の使いみちを見ることができるようになりました。視覚的なバブルチャートなどを用いた情報公開は、市民の理解促進と信頼獲得につながっています。

このプロジェクト成功の鍵は、議会DX推進に対する議員の理解と協力でした。議員の平均年齢は60歳以上で、新しいシステムへの不安もありました。しかし議会事務局職員による丁寧な個別支援によって不安は解消され、特に、毎週1時間設けた「セムカン寺子屋」での操作サポートは、議員のデジタルデバイドの解消に大きく貢献しました。

玉名市議会は、この取り組みを市のDXビジョン（「すべての市民に寄り添うデジタル行政の実現」）に基づくものと位置付け、デジタル技術を活用した政務活動費の透明性向上、市民の信頼確保に努めています。この成功事例は、業務標準化やデジタルデバイドへの対応など多くのノウハウを含み、全国の議会の参考となることを期待しています。今後は、積極的な情報発信や意見交換、事例共有などを通して普及活動を進めていく予定です。（了）



全議員向けの研修会の様子

【市議会最前線】『ピンチをチャンスに』更に親しみやすく開かれた議会を目指して =夕張市議会（北海道）

25/11/10 08:00 Nf1

夕張市議会では、平成25年2月28日に国内で唯一の財政再生団体という立場にありながらも自由闊達な議論を通じて政策提言や政策立案を積極的に行い、市民協働の議会運営を進めながら活力ある地域づくりを進めることを誓い、議会基本条例を制定し活動を行っています。

現在、議会の活動を市民に広く知ってもらうため議会だよりを年4回発行し、現在の夕張の様々な課題について議員自らが取り組んでいる姿を掲載しています。

また、普段、仕事や家事で傍聴できない市民のために6月の定例会には夜間議会を実施しています。

ここ最近では、更に開かれた議会の実現を目的に『You Tube』で議会の様子を公開しています。

次に市民との関係性構築のため力を注いでいるのが、年1回開催している地域懇談会です。課題のある地域に出かけ、直に住民の声に耳を傾け、執行機関が示す政策などに乖離がないか常に情報収集を行っています。

一方、主権者教育の重要性から小学生との交流も活発に行われ、例年2月に議事堂において模擬議会を開催し、議会について深く学んでもらう機会を設けています。



模擬議会

最後に、議会のICT化の取り組みについては、予算の関係もあり環境整備についてはなかなか思うようには進められない状況ではありますが、市内小中学校のタブレット端末が更新を迎え余剰となっている端末を利活用し、一部、ペーパーレス化を進めているところです。今後は、無料のアプリを活用し、スケジュール管理やオンラインでの会議などを試行的に行いICT化を進めていきたいと考えています。

地方での議会が抱える課題は、多岐にわたりますが、財政再生団体脱局後の議会運営を更に親しみやすく開かれた形となるよう取り組んでまいります。（了）



地域との意見交換会

【市議会最前線】市民に信頼され存在感のある議会を目指して = 奥州市議会（岩手県）

25/12/08 08:00 Nf3

奥州市は、岩手県中南部に位置し、豊かな自然と歴史・文化が息づくまちです。アメリカメジャーリーグで活躍する大谷翔平選手の地元としても知られ、多くの観光名所や伝統行事があります。人口は約10万6,000人、市議会は28名（男性24名、女性4名、定数28名）で構成されています。

奥州市議会では、社会情勢の変化により生じる市政の課題に適切かつ迅速に対応するため、徹底した議会改革に継続的に取り組んでまいりました。

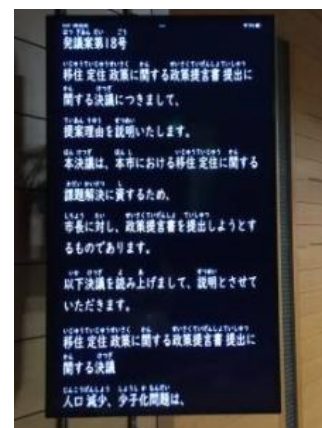
具体的には、議会運営の見える化の推進と情報発信の強化を図るため、議会広報紙のリニューアルを行ったほか、SNSの活用による情報発信や、地元エフエム放送の番組に議員が出演し電波を通じて市民に情報を届ける取り組みを実践してきました。

令和5年には、議場システムの更新に合わせてライブ字幕システムを導入し、傍聴席の大型モニターでライブ字幕配信表示を閲覧できるようにしたほか、インターネット議会中継では字幕付きのままホームページで中継を閲覧できるようにしました。専門用語が飛び交う議場のやりとりをルビ付きの文字に変換することで、耳の聞こえに不安のある人だけではなく、小中高生などにも分かりやすい議論を放映できるなど、主権者教育にもつながりました。

中継の字幕は、およそ150の国と地域の外国語翻訳に対応しており、誰ひとり取り残さないとするSDGsの取り組みにもつながりました。システム導入後は、聴覚に不安のある市民が議場に傍聴にいらっしゃいましたが、議会でのやりとりが良く分かるようになってとても良かったとの声をいただくなど、今ではモニターの近くにお座りになる人が増えています。

今年度は、任期4年間の総括として当市議会基本条例の検証を現在進めており、これまでの取り組みの成果と課題を明確にし、さらなる改善を図る予定としています。また、市議会議員政治倫理条例の制定に向けた取り組みも進めており、市民の皆様からの信頼確保と議会活動の一層の透明性向上を目指しています。

市民に信頼され存在感のある議会を目指し、当市議会では、今後も継続的な議会改革を推進しながら、「チェック」と「提言」による「二刀流議会」で市民の負託に応えてまいります。（了）



傍聴席前の大型モニターによるライブ字幕配信表示

【市議会最前線】災害発生時に議会は何ができるのか＝珠洲市議会（石川県）

26/01/05 08:00 Nf2

令和6年1月1日午後4時10分、石川県珠洲市内を震源とする能登半島地震が発生し、地震の規模はマグニチュード7.6で最大震度7を観測しました。

令和5年5月にも震度6強の地震があり、災害時における議会の行動マニュアルを議員に周知していましたが、実際はほとんどマニュアル通りの行動はできませんでした。

道路はもちろん電気、水道、通信網が使えない状況となり、全議員の無事が確認できたのは発災から4日後の1月5日でした。議員は各々の避難所等に張り付き、地元の情報収集や地域の方々の要望を行政に伝えることで精いっぱいでした。

また、オンライン会議もできるように条例等の改正をしていましたが、通信網が遮断されている地域があり、開催することができませんでした。

議会活動としては、最初に議員全員協議会を開催できたのが1月26日で、執行機関より市内の被害状況や支援制度についてはじめて正式に説明を受けました。

執行機関側も災害対応に追われており、議会に対して報告ができない状況にあり、各避難所においても支援策等について正確な情報がないため、誤って情報が流れるなど混乱が起きた地域もあったと聞いています。

そういった中で、議会やそれぞれの議員に求められた役割は、現在、どのような災害復旧対応を行っていて、その対応がいつ頃になるのかといった正確な情報の収集・伝達でした。そのため、議員個人として情報収集するには限界があり、執行機関へさまざまな対応を求めるのも困難であると考え、議員間討議を行い、それぞれの地域での問題点を洗い出し、それがどれくらいで改善されるのかといった情報共有を行いました。その後、それぞれの地域の問題点と共通課題をまとめ、執行部へ対応を求めました。

今回の震災を経験して情報共有の重要性を改めて感じ、議会改革の一つの取組として、タブレットの導入によりペーパーレス化は進みましたが、それをさらに進化させ、DXの取組みとしてオンライン会議等ができるように日常から取り組む必要があると痛感しました。

発災から2年が経過し、ようやく公費解体がほぼ終了の見込みとなり、これからインフラの本格的復旧が始まります。令和6年度末に策定した市の復興計画が本当に市民のためのものなのかを検証するとともに、市外へ転出された方々も珠洲市に戻ってきたいと思えるような、魅力ある復興計画になるよう議会として提言をするなどの取組を進めていく予定です。（了）



石川県珠洲市議会

【市議会最前線】 議会改革のこれまでと今後のさらなる推進へ = 豊島区議会（東京都）

26/02/02 08:00 Nf2

地方分権改革が進み、地方議会の果たすべき役割の重要性がますます高まっている中で、豊島区議会では、より一層、分かりやすく開かれた議会の実現に向けて、東京23区の中でも先駆的に議会改革の検討に取り組んできました。

平成23年7月に、各会派から検討項目を挙げてもらう現行の運営となりました。そして、改革の検討については、次期にも引き継いでいくという意思の表明として、平成27年3月に全会派一致で「議会改革の推進に関する決議」を採択しました。

今期においては、29の検討事項が提案され、順次、議会改革検討会で議論をしているところです。直近の令和7年12月には、公共政策、地方自治、地方政治を専門とされており、議会改革に造詣の深い大正大学の江藤俊昭教授を講師に招いて議員研修会を実施しました。

今回の議員研修会では「議会基本条例」、「議員報酬」、「政務活動費」、「議員定数」、「通年議会」の五つのテーマについて、江藤教授に講義をしていただき、議会改革の次なるステージに向けて機運を高めました。

豊島区議会は、これからも議会改革を推進し、区民にとって開かれたわかりやすい議会の実現に向け取り組みを進めていきます。（了）

【改革を実現した主な内容】

・平成23～26年度の期

「広報編集委員会の設置」、「議会独自の災害対策本部の設置」、「議会報告会の開催」

・平成27～30年度の期

「ヒアリンググループマークを議場前に標示」、「政務活動費領収書等のインターネット公開」、「議会のライブ中継に手話通訳の導入」

・令和元～4年度の期

「会議資料等のさらなるペーパーレス化」、「オンライン会議の導入」、「委員会室内での傍聴者閲覧用資料の設置」

・令和5年度～現在

「委員会におけるオンライン出席の規定整備」、「議会のライブ中継の拡大（※）」

※「議会のライブ中継の拡大」は、既にライブ中継をしている本会議、決算特別委員会、予算特別委員会に加え、令和7年6月から常任委員会（総務委員会、区民厚生委員会、都市整備委員会、子ども文教委員会）および、豊島副都心開発調査特別委員会においてもライブ中継を開始したものである。



豊島区議会の議場



議員研修会の様子

【市議会最前線】 議会報告会番組「こんにちは！市議会です」 = 亀山市（三重県）

26/03/02 08:00 Nf3

亀山市議会では、平成22年制定の議会基本条例に基づき、市議会が市民に身近で信頼され、公開性と透明性を高められるよう、市議会ホームページ、議会だより、議会報告番組、市公式LINEなどを活用し、積極的に情報発信に努め、「見える議会」を推進しています。

その取組の一つとして、平成23年から取り組んでいます議会報告番組「こんにちは！市議会です」について紹介します。

「こんにちは！市議会です」は、ナレーション原稿、テロップ映像の作成、番組の進行などを亀山市議会広聴広報委員会が企画・監修する約20分間の議会ダイジェスト番組となっています。広聴広報委員会の委員が番組のナビゲーター役としてアナウンサーを務め、番組の中で議長や副議長、常任委員会の委員長等が出演し、あいさつや報告をします。また、定例会・臨時会の内容や経過、議論の焦点となった議案の説明・結果などを中心に、折に触れ所管事務調査など委員会の活動や、議会改革の取組、中学生議会、行政視察、研修会、市民との意見交換会などについて紹介しています。

番組の映像制作については、地元ケーブルテレビ会社に、出演する議員の収録と専門的な編集作業を委託しています。出演議員の収録はおよそ1日かけて行うほか、日常から会議の様子や行政視察、市民との意見交換会の様子など、議会事務局が撮影した映像も使用しながら編集し、市民に対する議会活動の「見える化」を図っています。

完成した番組については、広聴広報委員会で最終確認し、放送・配信しています。番組の放送は、地元ケーブルテレビで、年4回（1回あたり2週間程度 1日18回放送）行っています。また、番組のウェブ配信を行うために、配信委託業者のプラットフォームを利用した方法をとっています。パソコンやタブレット端末から手軽にアクセスできる体制を整え、いつでも・どこでも議会の取組をご覧いただける環境を整備し、より多くの世代の方への情報発信に取り組んでいます。

今後も、市議会の活動内容を伝える場である議会報告番組を継続させ、また、広聴・広報のツールとして発展させていくことで、市民に「見える議会」を推進します。（了）



番組収録風景。



番組確認風景

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.